

市長から市民のみなさんへ

103

市長 白中博文

合併特例債事業について市民会議を開きました

10月から11月にかけて、合併特例債の活用について市民会議を開きました。本市の「まちづくり市民会議」は、市長の私的な諮問機関です。市長が政策を考える過程で、市民の意見を是非参考にした場合に開いているものです。平成17年4月の市長就任後、今回で9件目の開催になります。委員には23人が応募してくださいました。

合併特例債は、借金をしても返済の7割を国が引き受けてくれる合併のご褒美のようなものですが、借金は借金であるため、財政破綻寸前の本市ではなかなかその活用時期が巡ってきませんでした。しかし、市役所職員を含む市民のみなさんの頑張りのおかげでようやく財政指数も好転し、合併特例債の有効活用を検討することができるようになりました。ただし合併特例債は、合併後10年間の使用期限付きです。

市民会議では、合併特例債を使う事業として、市民のみなさん全体に関係する環境・衛生関係（著しく老朽化したごみ処理施設、し尿処理場、火葬場の新設・整備）や教育関係（小・中学校の耐震補強、学校給食の共同調理場の新設・整備）事業、それに地域住民の安心安全に不可欠な山陽消防署の新設と、小野田の産業遺産「皿山の里」構想について承認をいただきました。担当部署では早速、具体的実施に向けて、議会に議案を提出する準備作業に入ります。

ちなみに小・中学校の耐震化に関連して、補強工事では不十分で建替えを要すると診断された厚陽中学校と植生小学校について、教育委員会は、それぞれ同じ敷地内に小・中学校を建てて、教育の幅を大きく広げることのできる一体型連携校方式による校舎の新設を考えており、厚陽小・中学校関係は、この12月議会（12月3日から）に議案を上程する予定です。先の市民会議では、山陽地区の3中学校

を1箇所統合するという積極的な提案も出ておりましたので、市民のみなさんにも12月議会の審議の成り行きを見守っていただければと思います。

なお、山陽小野田市民病院の建替えの件は「まちづくり市民会議」に代えて、病院局に設置された「新病院建設構想検討委員会」の最終答申を待つことになりました。病院局では、新病院建設について、その必要性・地域医療の中での役割・規模・採算性・立地条件などについて専門の業者数社に調査を依頼する手続きを進めています。市民の関心の高い大企業だけに、作業が一区切りつく都度、市民のみなさんにお知らせしなくてはと考えています。

大正川にポンプ1基が増設されます

去る7月20日以降の豪雨のため、災害に遭われた市民のみなさんには、改めて心よりお見舞いを申し上げます。7月21日は、過去、例のない1時間に90ミリという集中豪雨が美祢市の桜山周辺に降り、そのため厚狭川の水位が短時間に一気に上がりました。大正川や桜川に流れ込む内水を厚狭川に排水するため大正川と厚狭川の合流地点にポンプ場が設置されていますが、設置済みのポンプは1基のみ。それでは間に合わず、結局、かなりの範囲にわたり床上または床下浸水という被害を引き起こしました。早速管理者である県に申し入れ、県も積極的に対応してくれた結果、ポンプ1基の増設と、合流地点より下流部の厚狭川の護岸を遅くとも4、5年内には整備していただけるそうです。近年は異常気象による災害も少なくなく、4、5年という期間には不安も残りますが、伝えられる厳しい財政状況のもと、県も真剣に考えてくれているものと、みなさんと共に整備の完成を期待したいものです。



対話の日

【19:00から】

12月24日(木) 大塚自治会館